

CAFE + MUSEUM SHOP

ミュージアムショップでは、展覧会図録や関連書籍、ポストカード、静岡市美術館のオリジナルグッズなどを販売しています。併設のカフェでは、香り高いコーヒーや静岡茶などもお楽しみ頂けます。



美術館ロゴマークと10周年記念ロゴマーク

美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気づかせてくれます。



10周年のロゴは、全体を斜体にすることでスピード感を出しています。これまでの歩みを引き継ぎ、時代の変化を見据えながら進む美術館の姿をイメージしています。

開館10周年記念スタンプラリー

2020年4月ー2021年3月開催の展覧会のうち、3つの展覧会をご観覧いただいた方、先着300名様にしずび10周年オリジナルバッグをプレゼント！

※本紙中面に、3つのスタンプを集めてください。他の用紙からのスタンプの移行や統合はいたしません。

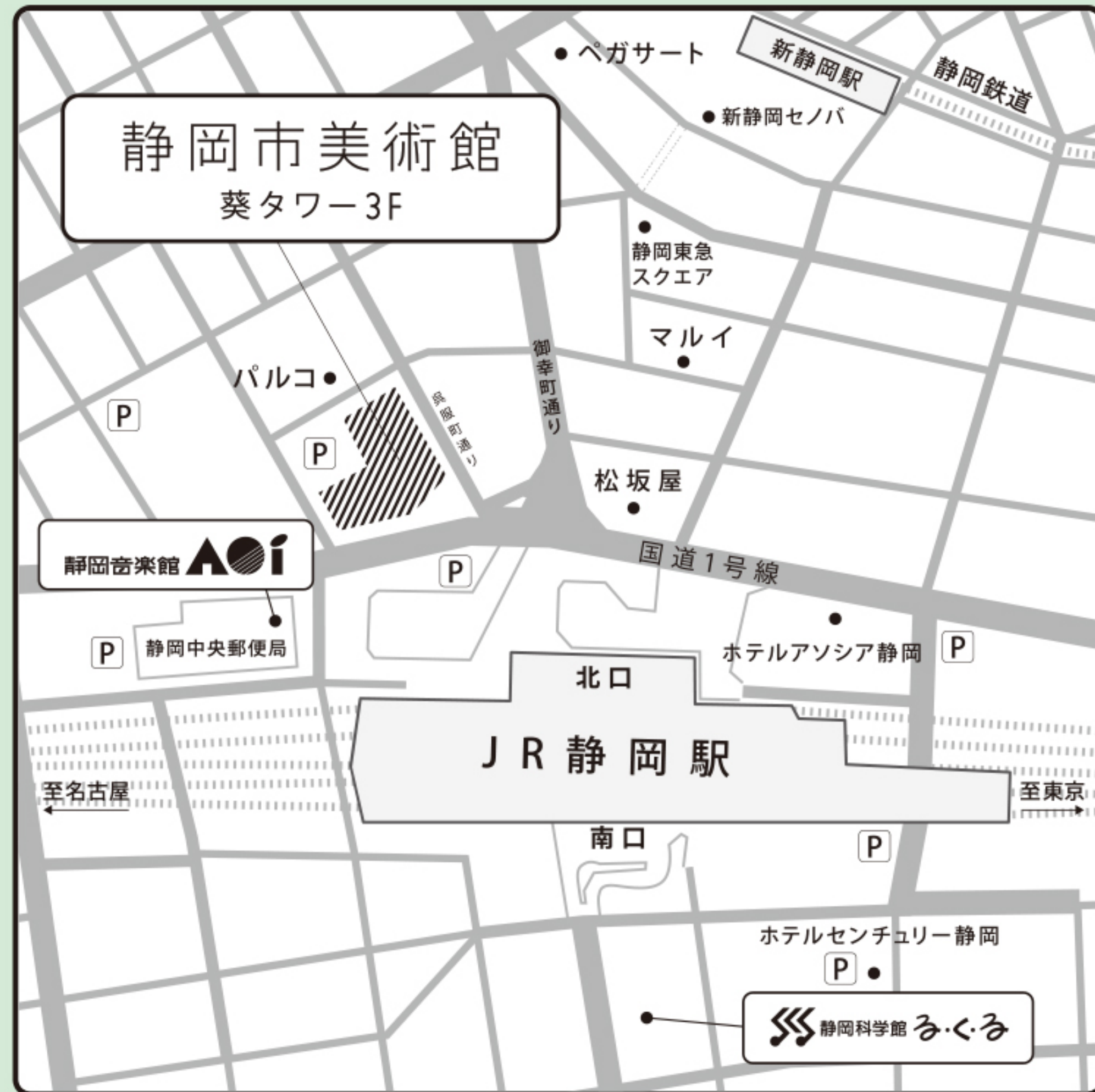
※1人1回限り、本人のみ有効、他人への貸与・譲渡はできません。

※紛失破損などの際の再発行はできません。

※プレゼントの内容は変更する場合があります。



※画像はイメージです



静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

静岡駅前の静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館では、三館共同事業を開催しています。

- 《電車》 JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス
(静岡エアポートライナー)で約1時間

- 開館時間 10:00ー19:00(展示室入場は閉館30分前まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)
年末年始
- 観覧料 展覧会により異なる。中学生以下無料。
交流ゾーン、ショップ利用は無料。

◎展示替え期間中も交流ゾーンは開館しています。

夜7時まで開館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

静岡市美術館 2020ー2021

10^{しずび}
th
ANNIVERSARY
SHIZUOKA CITY
MUSEUM of ART



静岡市美術館は、JR静岡駅北口の「葵タワー」3階に、2010年に開館し、今年10周年を迎えました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念として、展覧会事業と交流事業を柱にしています。“まちの中の広場”のような美術館を目指し、これからも活発に活動していきます。

交流事業

ミュージアムショップ＆カフェのあるエントランスホールや、多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と呼んでいます。ここでは様々なアートシーンの紹介や講演会、シンポジウム、コンサート、映画上映やワークショップなどを



Shizubi Project7 アーカイブ／1980年代ー静岡

実施しています。また、展覧会ごとに学校等の団体を対象にした鑑賞教室「ミュージアム教室」も実施しています。詳しくはお問い合わせください。

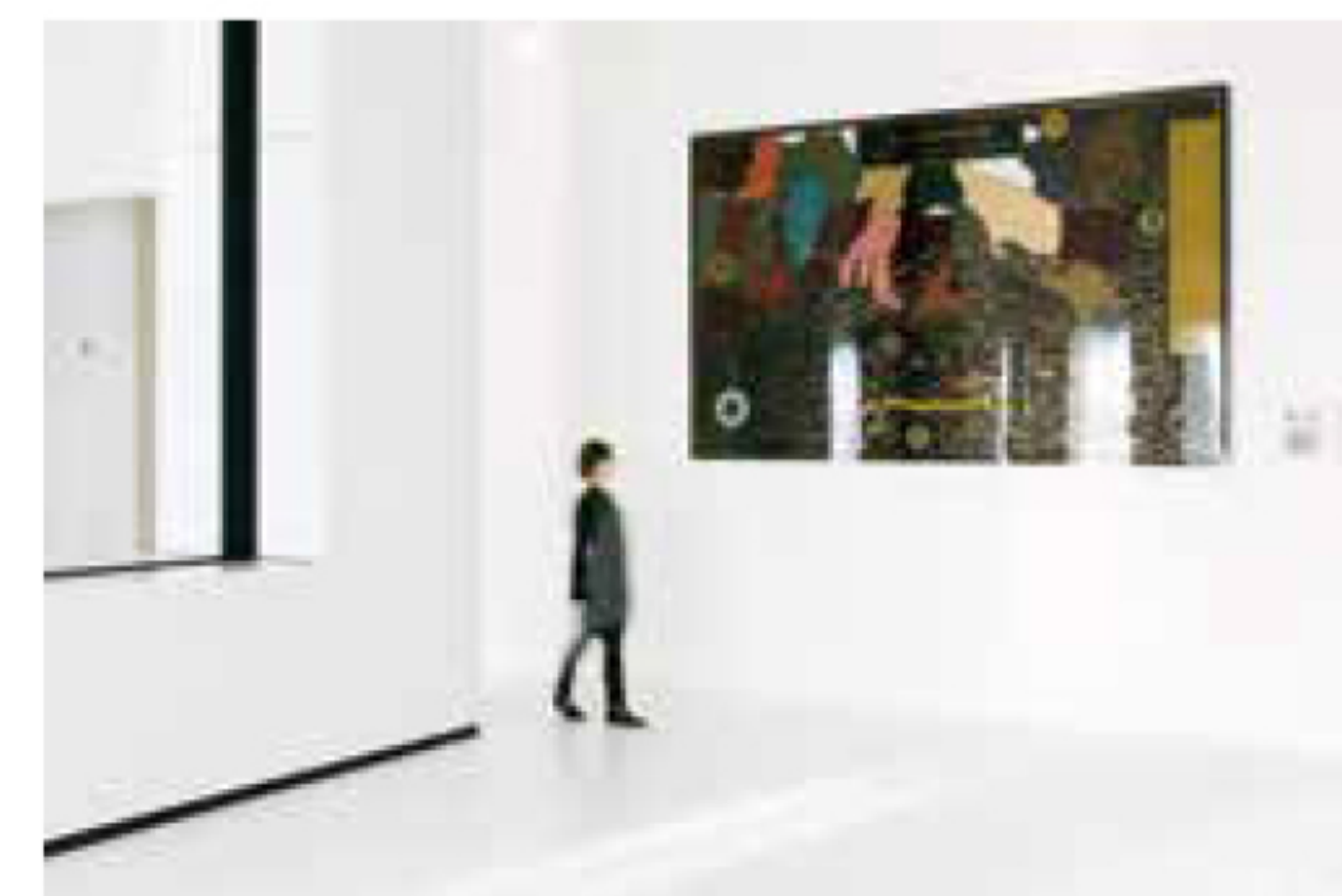


ワークショップのようす



多目的室

東海道五十三次ひとめ図



2012年1月、東海道を“ひとめ”で見渡せる漆工芸作品がエントランスホールに誕生しました。静岡の伝統工芸を今に伝える、蒔絵師、塗師、指物師の皆さんによる2×3mの大きな作品です。

詳細は当館 HP (www.shizubi.jp) をご覧ください。

日・チェコ交流100周年

ミュシャと日本、日本とオルリク めぐるジャポニスム

2020年4月11日(土)－5月24日(日) ※会期中展示替えがあります。



チェコ出身でジャポニスムに沸くパリで活躍したアルフォンス・ミュシャ(1860-1939)の絵は、1900年創刊の雑誌『明星』で紹介され、藤島武二ら日本の画家たちに影響を与えました。また、プラハ生まれのエミール・オルリク(1870-1932)は、1900年から翌年にかけて来日。浮世絵版画を学び欧州に新たな木版表現をもたらした一方、滞日中に制作した石版画は日本の画家たちを大いに刺激しました。これらの

動きは、グラフィックを介したジャポ

ニスムとその還流と捉えられます。本展ではミュシャとオルリクに加え、背景としてのチェコのジャポニスムを紹介するほか、ウィーン分離派や明治・大正期のポスター、版画、書籍など400点以上を展示し、表現の東西交流を探ります。

(右)アルフォンス・ミュシャ《「ジョブ」ポスター》1898年 三重県立美術館

(左)エミール・オルリク《富士山への巡礼》1901年 バトリック・シモン・コレクション、プラハ



東海道の美 駿河への旅

2020年6月6日(土)－7月19日(日)

※会期中展示替えがあります。

江戸時代、街道の整備により旅が流行し、東海道を主題にした絵画が多く生み出されました。駿河の国は名所・旧跡や富士山を望む景勝地に恵まれ、東海道の絵画に欠かせない地です。本展では駿河の風景に注目し東海道図屏風や歌川広重の保永堂版東海道など、旅と風景が生み出した豊かな世界を紹介します。また、東海道は文雅を好む駿河の文化人たちと京や江戸の絵師たちとの交友を可能にしました。円山応挙一門や司馬江漢などの作品をあわせて展示し、東海道が育んだ駿河の美術や文化を改めて見つめなおします。



《東海道図屏風》(右隻) 江戸時代 静岡市

ショパンー200年の肖像

2020年8月1日(土)－9月22日(火・祝)



アリ・シェフェール《フリデリク・ショパンの肖像》
1847年 ドルトレヒト美術館 Dordrechts Museum

日本をはじめ世界中で今も愛され続ける、ポーランド出身の作曲家フリデリク・ショパン(1810-1849)。繊細な曲調のピアノ曲を多く作曲したことから、「ピアノの詩人」と呼ばれ、ピアノ音楽の表現様式を拡大したことでも知られています。日本・ポーランド国交樹立100周年(1919-2019)を記念して開催される本展では、「ポロネーズ ヘ短調 作品71-3」の贈呈用自筆譜をはじめ、ポーランド国外では見る機会の少ない貴重な資料や、ショパンの生きた19世紀に制作された多彩な美術作品を中心に、生誕から現在までの約200年にわたる様々なショパン像をご紹介します。 ※展示内容は変更する場合があります。



フリデリク・ショパン《ポロネーズ ヘ短調 作品71-3、自筆譜(贈呈用)》
1836年 国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
photo: The Fryderyk Chopin Institute

生誕110年・没後30年

あかば すえきち 絵本画家・赤羽末吉展(仮)

2020年10月3日(土)－11月29日(日)

日本の絵本の可能性を大きく切り開いた絵本画家・赤羽末吉(1910-1990)。22歳で満洲(中国東北部)へ渡り日本画家として活躍する一方、その風土が育んだ市井の人々のくらしに深い関心を寄せます。引揚げ後、50歳のときに手がけた『かさじぞう』で絵本画家として遅咲きのデビューを果たすと、以後『スーホの白い馬』など、ふたつの「郷土」の美しさとそこに生きる人々の姿を描き続けました。本展ではちひろ美術館所蔵の絵本原画とともに、取材時のスケッチや写真、制作過程の貴重な資料など約200点をとおして、赤羽末吉の画業の全体像をご紹介します。



赤羽末吉《『スーホの白い馬』表紙》(部分) 1967年 ちひろ美術館

ライデン国立古代博物館所蔵

古代エジプト展

2020年12月19日(土)－2021年3月31日(水)



ヨーロッパの5大エジプト・コレクションで知られるオランダ・ライデン国立古代博物館は、世界で最も古い国立博物館の一つです。本展では質量ともに優れた本コレクションより、人や動物のミイラや棺、

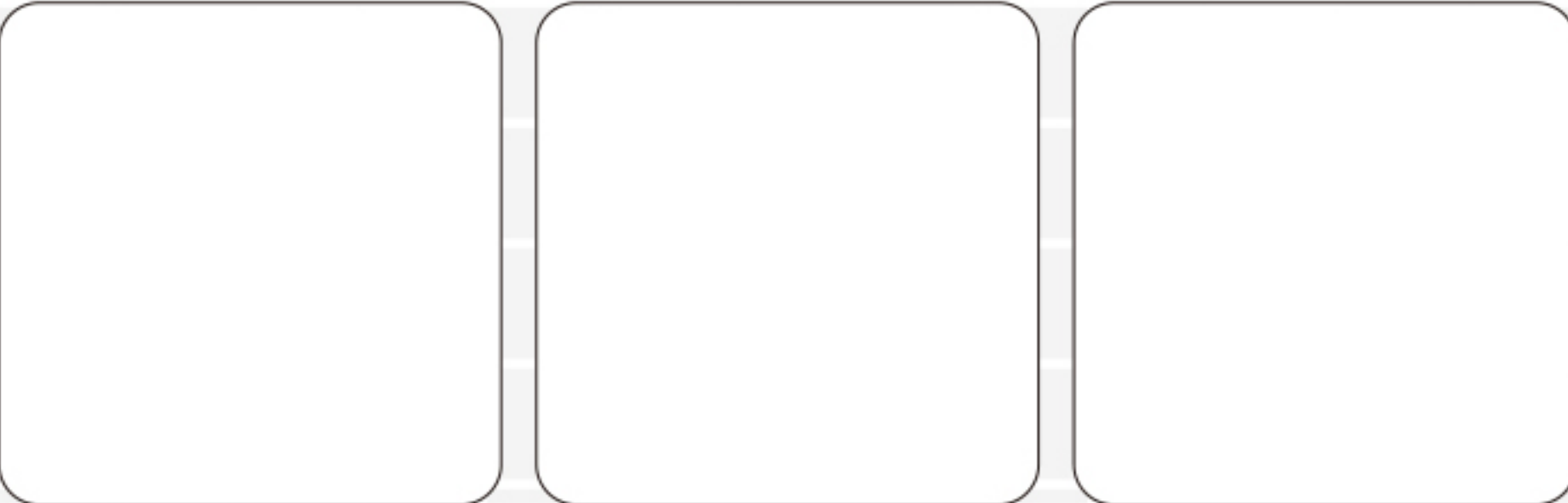
石碑、貴重なパピルスなど約250点を厳選し古代エジプトの世界を展覧します。また同館の長年の調査研究で明らかになった古代エジプト人の生活や社会、死生観などを紹介するとともに、本展に出品されるミイラのCTスキャンの成果を世界初公開するなど、最新の科学技術による、当時の人々の医学的な知識やミイラ作りの過程、色やかたちに対する美意識なども解き明かします。



(上)《パウティのピラミディオン》新王国時代
(下)《ホルの外棺》後期王朝時代 すべてライデン国立古代博物館
All Images©Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

開館10周年記念スタンプラリー

3つの展覧会をご観覧いただいた方、先着300名様にしずび10周年オリジナルバッグをプレゼント!



展覧会毎にスタンプが変わります。3つの異なるスタンプを集めてください。

スタンプ押印期間	2020年4月11日(土)－2021年3月31日(水)
記念品引換期間	2020年8月1日(土)－2021年4月30日(金)
引換場所	静岡市美術館受付